

佐賀市総合計画審議会 暮らし・環境分科会 意見整理表

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
1	6 生活・環境		45	上赤委員	生活・環境の冒頭のリード文について、「自然保護」のフレーズがあるが、近年のトレンドを踏まえ「自然環境の保全」のほうが適していると考え。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。 リード文では、自然環境や生物多様性の保全を含む広義の文言を用いて記載したい。	佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直しや脱炭素、自然保護など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。	佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれが <b>ライフスタイルの見直し、脱炭素化の推進、自然との共生</b> など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していけるように取り組んでいきます。
2	6 生活・環境	脱炭素が当たり前の社会の実現	46	北原委員	昨年、水素基本戦略が改定され2040年を目処に水素エネルギーの活用を拡大していく方針が定められている。これを踏まえて、⑤の文章においても、「研究」に留まるだけでなく、「普及」や「活用」といった記載にする方が望ましいのではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【1 脱炭素が当たり前の社会の実現】 ⑤産学官が連携し、次世代エネルギーの供給・需要の拠点形成に向けた研究を行います。	【1 脱炭素が当たり前の社会の実現】 ⑤産学官が連携し、次世代エネルギーの供給・需要の拠点形成に向けた研究を行い、 <b>その普及と活用に向けて取り組みます。</b>
3	6 生活・環境	「捨てるからし」から「活かすからし」への転換	45 46	北原委員	3Rの取組は従来進めてきたかと思うが、近年はサーキュラーエコノミーへの移行が環境省でも示されているため、この考え方を計画内に盛り込んでもいいのではないかと思う。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	<b>主なポイント</b> 市民一人ひとりが3Rに取り組むことができる環境があること プラスチックの資源循環をはじめとして持続的なリサイクルシステムを確立すること	<b>主なポイント</b> 市民一人ひとりが3Rに取り組むことができる環境があること プラスチックの資源循環をはじめとして <b>持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること</b>
4	6 生活・環境	豊かな自然と心地よいくらしの調和	45	上赤委員	2040年に目指す市民等の姿の「自然や動物と共存するまち」のフレーズについては、植物の観点が抜けているので、「自然や生物と共存するまち」に変更するのが望ましい。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【2040年に目指す市民の姿】 3.市民は、豊かな自然を守るため、自らできることに取り組み、自然や動物と共存するまちで快適に暮らしている。	【2040年に目指す市民の姿】 3.市民は、豊かな <b>自然や身近な生活環境</b> を守るため、自らできることに取り組み、 <b>自然や生物と共存するまち</b> で快適に暮らしている。
5	6 生活・環境	豊かな自然と心地よいくらしの調和	45	上赤委員 大江委員	主なポイントについて、外来生物についての記載は、右側の取組に同様の内容が書かれているので、記載不要ではないか。主なポイントの構成としては、1つめに「市の多様な自然や生態系の価値を知って理解すること」、2つめに「生物多様性を高めるために、自然環境の保全が行われていること」として、知ることと行動を持ってくるとしっくりくるのではないかと。今の佐賀の自然を知り・親しみ、これからも保全していくという記述をもう少し加えてもいいのではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	<b>主なポイント</b> 生物多様性や動植物の保全・共生に関する理解が浸透すること 市民と協力して外来生物への対応を強化すること	<b>主なポイント</b> <b>佐賀市の多様な自然や生態系について学び、自然環境の保全や再生に取り組んでいること</b> <b>市民と協働して良好な生活環境の維持に取り組むこと</b>
6	6 生活・環境	豊かな自然と心地よいくらしの調和	45 46	上赤委員	市民アンケートでは、佐賀市の良いところとして自然が挙げられているが、佐賀の自然は残っていない。佐賀の自然は全国ワースト4位で、平地も山も開発され尽くされており実際は自然は少ない。この実情を知った上で、佐賀市に残された素晴らしい自然を保全するという文面が望ましいと思う。	No.4及びNo.5の方針と同じ。		
7	6 生活・環境	豊かな自然と心地よいくらしの調和	45	内藤委員	豊かな自然はどういう背景でつくられてきたのか、そして、それをどう伝えていくのか、といった観点も盛り込んでいいと思う。	意見のとおり、佐賀市が誇る自然を知り、守り育てるためには、環境教育の推進が重要であるという認識を踏まえ、取組内容（P46）に盛り込んでいるものと考えている。		
8	6 生活・環境	豊かな自然と心地よいくらしの調和	46	大江委員	2040年に目指す市民等の姿では「自然や動物」と記載しているが、主なポイントで「動植物」になっているため統一させるべきではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【3 豊かな自然と心地よいくらしの調和】 ①環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、佐賀市が誇る自然環境の保全や回復を行います。 ②有明海の希少な動植物や産物等の恵みを生活や産業活動に持続的に活用し、ひがさすを拠点として交流・学習の機会を創出します。	【3 豊かな自然と心地よいくらしの調和】 ①環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、佐賀市が誇る自然環境の保全や <b>再生</b> を行います。 ②有明海の希少な <b>生物</b> や産物等の恵みを生活や産業活動に持続的に活用し、ひがさすを拠点として交流・学習の機会を創出します。

No	基本政策	施策	ページ	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
9	8 防災・安全	総合的な防災・危機管理対策の充実	49 50	溝上委員	自主防災組織や消防団が高齢化に伴った担い手不足が1番の課題で、今後の10～20年後を見据えると、河川清掃活動もしており、自主防災組織や消防団といった組織を充実させていくことが、地域のコミュニケーションや共助につながっていく。その点で、いかに若者を取り込んでいくかが重要になってくると考える。	地域防災の人材の裾野を広げていくため、まずは活動への関心をもってもらうよう効果的な情報発信や啓発を検討していく。		
10	7 コミュニティ	みんなが主役のまちづくり	47 48	かくもと委員	ゴミ拾いのボランティアなど、他分野の活動が防災や防犯といった取組に繋がることがあって、自治会長などの役職に就いていない人でも、地域のことをよく理解している人もいます。役職がある人やある一定の分野の人だけが集まるコミュニティではなく、地域の困りごとを地域住民のみんなで一緒に解決していくような情報共有の場があればいいのではないかと考える。	「07 コミュニティ」に係る意見のため、総合・地域分科会において整理を行う。		

11	9 都市・交通	魅力ある居住環境の創出	52	内川委員	空き家のリフォーム・利活用については、インスペクション等で安全性を担保することを計画に記載する必要があるのではないか。記載がないと、どんな空き家でも住めるというように読み取れてしまうと考える。	総合戦略や関連する主な個別計画内で整理する。		
12	9 都市・交通	魅力ある居住環境の創出	52	有田委員	佐賀市はすごくいい街。ポジティブなものをもっと伸ばしていくという考え方も良いと思う。 また、空き家を集落のような形で、アトラクションみたいな形で活用できないか。 心配事を減らすのも大事だが、ポジティブな点を伸ばす観点も必要と考える。アトラクションを増やすべき。	総合戦略や関連する主な個別計画内で整理する。		
13	9 都市・交通	人と環境に配慮した道路ネットワーク整備	52	内川委員	駅北はバリアフリーが進んでいるが、駅南はまだ手つかずであり、歩道がボコボコしているところが多い。ベビーカーや車いす、杖をついた高齢者が歩きにくい歩道になっている。子育て世代に優しい、高齢者に優しい歩道整備についても計画内に盛り込んで欲しい。	計画素案では、「安全で快適な歩行空間・・・」と記載しており、表現としては既に盛り込み済みである。 具体的な内容については、総合戦略の取組において検討する。		
14	9 都市・交通	人と環境に配慮した道路ネットワーク整備	52	内藤委員	佐賀は平たんなので、自転車が走りやすい環境を整えるのが良いのではないかと考える。例えば、健康都市さかというキャッチフレーズも考えられる。車社会でなく、自転車社会を目指すという方向性も良いと思う。	本市では、平成10年に「自転車利用環境整備モデル都市」の指定を受け、平成13年に「佐賀市自転車利用環境整備基本計画」、平成17年に「佐賀市自転車利用環境整備実施計画」を策定し、最近では令和2年に改定して、自転車利用の環境整備を推進している。 以上のことから、既に自転車利用環境の整備に取り組んでいるところであり、次期総合計画素案においても取り組みを推進していく。		